
親子陶芸教室 ～世界にひとつだけの作品作り～

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 独創的なお皿やカップを作る活動を通して陶芸に親しみ、親子のふれあいの場を設ける。
- 期 間 令和3年1月16日（土）
- 時 間 午後1時～3時 （計2時間）
- 対象・定員 市内在住の小学生と保護者・12組
- 参加費 粘土代（1g1円）、当日計量し集金
- 参加者 15組34人（保護者15人、子ども19人）
- 講師 陶芸工房主宰 佐原朋子
- 事業内容 皿やカップの成形、装飾
- まとめ

コロナ禍の中での開催のため、密を避けるために3階ホールで行い、定員を15組まで増やしたが、4組の親子さんを断ることになった。

最初に講師が作り方の説明をして、制作が始まった後は、講師は見回り指導してくれた。受講者は大変熱心に取り組み、カップ、お皿、灯り、表札などを作り、完成後は作品の重さを計り、1グラム1円の計算で粘土代をいただいた。

講師は作品を工房に持ち帰り、一週間くらい乾かしてから素焼きし、透明の釉薬を付けて本焼きをし、二週間後に持ってきてもらった。

講座は2時間だが、その前の準備と終了後の作業にかなり時間がかかる。全てを段取りよく進めてくれる講師のおかげで成り立つ講座である。親子で作品を作る時間や、完作品が良い記念になることと思う。



子育てラクラク講座 親子で絵本を楽しもう ～クリスマスに寄せて～

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 幼児と保護者を対象に、絵本の選び方や読み聞かせを学習する。
- 期 間 令和2年12月18日（金）
- 時 間 午前10時～11時 （計1時間）
- 対象・定員 市内在住の3歳以上の幼児と保護者・10組
- 参 加 者 5組21人
- 講 師 新座市中央図書館 上野邦晴 窪寺千鶴子
- 事業内容 3歳以上の幼児と保護者を対象に、絵本の選び方や読み聞かせを学習する。

○ま と め

コロナ禍のためか応募者が少なかったので、近くの保育園に声をかけたところ、先生4人と園児8人が参加してくれたことで、3歳以下の子どもさんの方が多かった。応募者は4組だけだったが、おばあちゃんとお孫さん、三世代での参加もあった。

講師の司書のお二人に、絵本の選び方や紹介をしてもらい、昔から伝え続けられている話を伝えていく大切さを学んだ。また、読み聞かせの際には過度な演出は想像する楽しみを損ねてしまうというアドバイスもあった。

コロナ禍の中で密を避け、換気をして無事に講座を修了することができた。図書館から参加者に「いろいろないろのえほん」と言う、とても小さな本がプレゼントされた。



キャッシュレス決済って何？

～いくつかのキャッシュレス決済を学びましょう～

〈東北コミュニティセンター〉

○開設の趣旨 クレジットカード、スマホ決済などの仕組みや注意点について学習する。

○期 間 令和２年９月３０日（水）

○時 間 午後１時～３時（計２時間）

○対象・定員 市内在住又は在勤の方・２０人

○参 加 者 ２０人

○講 師 ファイナンシャルプランナー 本岡 藤栄

○事業内容 クレジットカード、スマホ決済などの仕組みや、メリットとデメリット、注意点について学ぶ。

○ま と め

新型コロナウイルスの感染予防のため講座が中止になっていたが、９月再開し、令和３年度最初の講座となった。

密を避けるための座席の配置、手指消毒、検温、マスク着用、アクリル板設置等々全て初めてのことであり、感染予防の対処にかなり気を使った。講師はマスクとフェイスシールドを着用し、マイクを使って話してもらった。電子マネー、クレジットカード、デビットカード、QRコードの決済方法やメリットなどについて解説してもらい、インターネットの買い物での注意点にも触れてもらった。基本的な内容だったので、中には物足りなさを感じた人もいたのではないと思う。

欠席は２名だけで、受講者の熱心さが伝わった。



和食ってなあに？

～ユネスコの無形文化遺産に登録された「和食」～

< 東北コミュニティセンター >

- 開設の趣旨 和食文化の特徴について学ぶ。
- 期 間 令和２年１０月２９日（木）
- 時 間 午前１０時～１１時３０分 （計１時間３０分）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・１５人
- 参 加 者 １５人
- 講 師 一般社団法人和食文化国民会議 小林雄三 武田尚樹
- 事業内容 和食の要と言われる「だし」を通して、そのうまみを体感して和食に触れる機会を得る。また、和食文化の特徴について学ぶ。
- ま と め

２０１３年に「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録された。その和食の要である「だし」を通してうま味を体感し、和食文化の特徴について学んだ。講師が説明している間に、別の講師が昆布とかつお節でだしをとってくれた。昆布を入れた鍋を６５度で６０分間保ってから昆布を引き上げ、沸騰寸前まで加温してから大量の削り節を投入して火と止める、という丁寧な方法だった。講座の最後にそのだしを味わった。

米の消費量は昭和４０年頃をピークに減り危機に瀕していたが、日本人の伝統的な食文化を次の世代につなげていくことをユネスコに約束したという話が印象的だった。

塩分はだしをきちんととることによって抑えることができ、うまみを味わえる。今や「うまみ」は世界に浸透していることばである。伝統食や行事食の話を聴き、改めて和食の良さを見直すことができた。

受講者の質問も多く、熱心さが伝わった。

Xmas とお正月のリースを作ろう！ ～ 1 つのリースを 2 役に～

< 東北コミュニティセンター >

- 開設の趣旨 資源を有効活用できる 1 台 2 役のリースを作る。
- 期 間 令和 2 年 1 2 月 3 日（木）
- 時 間 午後 1 時～ 3 時 （計 2 時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・ 1 5 人
- 参 加 者 1 5 人
- 講 師 オレンジテール 齊藤 淳子
- 事業内容 クリスマスリースを制作して楽しんだ後、お正月飾りを制作する。1 台、2 役で資源の有効活用にもなる。
- ま と め



講師の目が届く範囲の人数設定で、募集人数を 1 5 人にしたところ、受付開始から 2 0 分ほどで定員に達し、キャンセル待ち 8 人となった時点で受付を終了した。

材料費は 1 人 2 0 0 0 円と高額であることから事前集金して、講座当日に生花店に支払った。

講座には講師のほかに 2 名のスタッフがいらして、丁寧な指導をしてくれた。同じ材料を用いたが、仕上がりは一つひとつ異なった表情を持った作品になり、参加者は大満足の様子であった。

クリスマスが終わったら、飾りの各部品をはずし、リースの土台に用いていたしめ縄を使い、お正月飾りに変身させる手順書を配布し、説明もしていた。講師が両方の見本を会場に展示してくれたので、スマホに納める人もいた。

参加者から、とても良い企画であるとの意見を多数いただいた。

シニアのためのスマートフォン教室

< 東北コミュニティセンター >

- 開設の趣旨 シニア世代を対象にスマートフォンがどのようなものであるかを知ってもらい、今後利用するかを判断する機会を提供する。
- 期 間 令和3年2月3日（水）
- 時 間 午前10時～正午 （計2時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の、スマートフォンをこれから利用予定の60歳以上の方・20人
- 参 加 者 20人
- 講 師 KDDI認定講師 齊藤 卓也
- 事業内容 これからスマートフォンを利用しようとするシニア世代に基本操作を解説し、スマートフォンがどのようなものかを理解してもらう。

○ま と め

今年はスマートフォンの購入を検討している人を対象にしたコースの講座を実施した。

KDDI(株)の社会貢献事業で、講師を派遣していただき、スマートフォンの機種を貸し出していただいた。

今年は、63歳から88歳までの方が申込みをされた。コロナ禍のため、例年集会室で実施していたが、密を避けホールで行った。

写真の撮り方や動画の撮り方、メールの打ち方、音声での文字入力など丁寧に説明していただき熱心に学んでいた。参加者は、携帯電話をお持ちの方がほとんどで、スマホに乗り換えるかを検討しているようだった。



2021年は埼玉誕生150周年！

～知られざる埼玉の魅力～

< 東北コミュニティセンター >

○開設の趣旨 2021年は埼玉誕生150周年にあたるため、知られざる埼玉の魅力について紹介する。

○期 間 令和2年12月4日（金）

○時 間 午前10時～11時 （計1時間）

○対象・定員 市内在住又は在勤の方・15人

○参加者 7人

○講師 県政出前講座 森住 桃子

○事業内容 あまり知られていない埼玉の魅力、日本一、日本初を紹介する。

○ま と め

定着しつつある東北コミセンの旅行講座シリーズの位置づけで毎年、海外旅行を取り扱う講座を実施している。昨年は、今人気のある世界遺産の旅講座の第2弾として、ギリシア、エジプト、トルコ古代文明の旅を企画した。

今年は、コロナ禍のため県政出前講座をお願いし、2021年は、埼玉生誕150周年にあたるため埼玉の魅力について話していただいた。

4月から10月まで講座が開催できなかったもので、参加者が集まるか心配したが、12名申し込みのところ7名の参加であった。

埼玉県のグルメ、日本初や日本一など写真を交えて説明を行った。熱心に質問する方もいらしかった。皆、新たな埼玉の魅力を知っていただいたようだった。



日本の建築と西洋の建築

< 東北コミュニティセンター >

- 開設の趣旨 日本と西洋の建築について学び、教養を高める。
- 期 間 令和2年10月24日(土)
- 時 間 午前10時～11時30分 (計1.5時間)
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・30人
- 参加者 22人
- 講師 東洋大学理工学部建築学科准教授 篠崎 正彦
- 事業内容 日本の繊細な建築と西洋の堅固な建築の実例を通して比較しながら、空間の区切り方やしつらえの特徴、素材、庭との関係などについて学習する。
- まとめ

「東洋大学講師派遣事業」に応募して実施した講座である。

コロナ禍の中での講座なので、体温チェックやマスク着用は当然のことであるが、それ以外にも東洋大学から要請された基礎疾患に関する質問や感染を疑われる人との接触に関する質問をする必要があった。基礎疾患については個人情報にも触れることであり、受付の難しさを感じることもあった。

日本の建築は桂離宮を例にして、庭を楽しむことを重要視していて、月が水面に映ることを楽しみにしている。西洋の建物は石で造られていることから大きな窓を作れず、室内と外がセットではなく中のみで成立することという話などが興味深かった。講座終了後も質問する人が多く、熱心な様子だった。

アンケートの結果を見るとほとんどの方が満足して理解したということが分かり、また今後も同じような話を聴きたいという声も多かった。

社会貢献事業を提供してくれた東洋大学に感謝したい。



人 権 を 考 え る

< 東北コミュニティセンター >

- 開設の趣旨 利用者懇談会の中で人権について学習する。
- 期 間 令和２年１１月７日（土）
- 時 間 午前１０時３０分～午前１１時（計０．５時間）
- 対 象 当館利用者団体代表・７０人
- 参 加 者 ３８人
- 事業内容 人権啓発推進ビデオ「ここから歩き始める」を視聴し、身近な人権について考える。

○ま と め

利用者懇談会の場を借りて、人権啓発推進ＤＶＤを上映した。

今年度は、「ここから歩き始める」を視聴した。

日本における平均寿命の大幅な伸びや、少子化などの背景として、社会の高齢化が急速に進んでいる。それに伴い、認知症高齢者もおおきな社会問題になっている。高齢者を家族や地域でどのように支えていくかまた、高齢自身の意欲や能力をどのように生かしていくかを考えることは、これからの私たちの大きな課題である。

この作品は「認知症と共に生きる」をテーマに高齢者問題を人の幸せと尊厳を守るという人権の視点から捉え、高齢者が人間として誇りを持って生きていく上で大切なことについて、家族や地域の人の視点を通して考えるきっかけとなるドラマであった。

私たちに身近な題材であったため、多くの人が考えさせられる内容であった。



デッサンと着彩 ～デッサンの基礎を学ぼう～

＜東北コミュニティセンター＞

- 開設の趣旨 初心者を対象にデッサンと着彩の基本を学ぶ。
- 期 間 令和2年12月24日（木）・25日（金） （計2回）
- 時 間 午後1時～3時 （計4時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・10人
- 参加者 7人 参加延べ人数 14人
- 講師 絵画教室主宰 森 千恵子
- 事業内容

	月 日	内 容
1	12月24日（木）	それぞれが持参したモチーフをデッサンする
2	12月25日（金）	水彩絵の具や色鉛筆で色を塗る

○ま と め

応募者が7人で少なかったが、コロナ禍の中では密にならずにかえって良かったかもしれない。幼稚園児を連れて参加した人がいたが、母親と一緒に楽しそうに絵を描いて、和やかな雰囲気講座になった。

1日目はデッサンで、2日目は水彩絵の具や色鉛筆などで色を塗った。デッサンだけのものと色を付けたのと2枚仕上げた人もいた。

講師は見回りながら、個人的に丁寧にアドバイスしてくれた。最後は、完成した絵を並べ、お互いの作品を鑑賞した。何十年ぶりに絵を描いたという方が再度、絵に興味を持つきっかけになったようだった。

講師の穏やかな指導の下で、受講者全員が有意義な時間を過ごせた様子だった。来年も開催してほしい、という要望があった。



イタリア人に聴くイタリアの暮らし ～お菓子も一緒に～

< 東北コミュニティセンター >

- 開設の趣旨 イタリアの食生活、住宅、街を通して文化や習慣を学ぶ。
- 期 間 令和3年3月19日（金）
- 時 間 午前10時～正午 （計2時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・30人
- 参加者 25人
- 講師 新座市国際交流協会 篠田イラリア
- 費用 180円（コーヒー、お菓子代）
- 事業内容 イタリアの食・住居・街を通して異文化を学ぶ
- まとめ



申込者が定員とほぼ同数で、全員を受け入れることができた。

当日6名の欠席があったことは残念だった。

講師は新座市在住の女性で、日本語が大変上手で、話の展開も良く、皆が引き込まれていく様子だった。イタリア人にとってバール（カフェ）は集いの場所であり、コーヒーを飲むためだけではなく、友達と会う大切な場所であり、街の重要な位置付けであることが印象深かった。

集まることが大好きな国民性のため、コロナ禍の状況は大変つらいことらしい。

後半はエスプレッソと2種類のお菓子を食べてイタリアの雰囲気に入れることができた。固いビスケットはコーヒーなどに浸して食べること、簡単に作れるパスタ料理はわざわざ外食しないこと、料理のシェアはしないこと等々、意外に感じる話もあった。

事前の打合せに何度も足を運んでくれた講師に感謝したいと思う。

イキイキ実年学級 ～健康な暮らしのための食生活とは～

< 東北コミュニティセンター >

- 開設の趣旨 食品添加物の種類や効果を学び、適切な食生活について学ぶ。
- 期 間 令和2年11月6日（金）
- 時 間 午前10時～正午 （計2時間）
- 対象・定員 市内在住在勤の方・30人
- 参加者 14人
- 講師 埼玉県消費生活支援センター・管理栄養士 山崎良法
- 事業内容 成人を対象に、食品添加物の種類や効果を学び、適切な食生活の送り方について学ぶ。
- ま と め

新型コロナウイルス感染症対策として、通常なら30名入れる集会室だが15名の定員で行った。講師は対面で話すことをせずに、部屋の後ろで話し、パソコン操作をして講座を行った。

食の安全という身近な内容であったため、受講者は大変興味深く耳を傾けていた。食品の購入から、家庭での保存の方法について説明した。スーパーで販売しているレモンなどは農薬やワックスのことを考えると、洗剤で洗った方が良いとのことだった。

講義終了後の質問も活発に行われた。



イキイキ実年学級 ～骨・カルシウムセミナー～

< 東北コミュニティセンター >

- 開設の趣旨 骨の役割や、骨に欠かせない栄養素について説明を受ける。
- 期 間 令和2年11月20日（金）
- 時 間 午前10時～11時 （計1時間）
- 対象・定員 市内在住在勤の方・15人
- 参 加 者 21人
- 講 師 雪印メグミルク関東 宮後 泰子
- 事業内容 私たちの体を支えている「骨」の栄養素であるカルシウムの働きについて学ぶ
- ま と め

雪印メグミルク株式会社の社会貢献事業により講師を派遣していただいた。

コロナ禍により、参加者が集客できるか不安であったが、24人応募があったので、集会室からホールに変更して開催した。

本来ならチーズの試食がついた講座だが、コロナのため講義だけ行った。参加者の年齢層は高かった。チェックシートを渡され、自分の状態をチェックした。カルシウムは牛乳やチーズだけでなく、大豆や海藻類や小魚から意識しながら摂ることが大切ということだった。



外国人のための日本語教室

＜東北コミュニティセンター＞

○開設の趣旨 日本語を母国語としない人を対象に、日本語の学習と地域社会の生活の円滑化を支援する。

○期 間 令和２年４月１日～令和３年３月３１日までの毎週日曜日
計９回

○時 間 午後６時３０分～８時 （計１３・５時間）

○対象・定員 日本語を母国語としない外国人・７０人

○参加者 参加延べ人数 ７０人

○事業内容 日本語の学習、指導及び生活の円滑化について参加者へ支援を行う。

○まとめ

平成２０年度から新座日本語の会と共催で始め、今年度で１３年目となる。学習者の国別では中国とベトナムが圧倒的に多く、ベトナムは圧倒的に男性が多い。他にはイギリスなどから参加している。

夜間講座なので連続しての出席はなかなか難しいようである。入門レベルの受講生がほとんどで、日本語のみならず、日本の文化についての紹介もしている。本市及び近隣地域において今では日本語を学ぶのに不可欠な存在となっている。

今年は、コロナウィルス感染防止のため、９月、１０月、１１月しか開催できなかったもので、例年に比べ開催回数や参加人数は減少した。

